

【 杵 築 市 】

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 調査結果の分析

小学校：国語

	全体	学習指導要領の内容					
		言葉の特徴や 使い方に 関する 事項	情報の扱い方 に関する 事項	我が国の言語 文化に 関する 事項	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと
杵築市	68	83.6	61.9	80.4	64.2	69.7	60.1
大分県	69	83.8	63.4	82.9	65.8	70.6	59.8
全国	66.8	76.9	63.1	81.2	66.3	69.5	57.5

◇全14問（選択式9問・短答式3問・記述式2問）であり、教科全体では全国平均を1.2ポイント上回った。記述式問題形式については全国正答率58.8%であるのに対して杵築市65.9%と全国平均を上回っている。

□「言葉の特徴や使い方にに関する事項」領域の「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」（知識・技能）は全国平均を6.7ポイント上回っている。

□「読むこと」領域は全国平均を2.6ポイント上回っており、中でも「目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つける」（思考・判断・表現）は全国平均を10.4ポイント上回っている。

■「話すこと、聞くこと」領域は全国平均を2.1ポイント下回っており、中でも「話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」（思考・判断・表現）は全国平均を4.9ポイント下回っている。

■「情報の扱い方にに関する事項」領域の「情報と情報との関係づけの仕方」（知識・技能）は全国平均を1.2ポイント下回っている。

□正答数3問以下（正答率20パーセント未満）の割合は全国より少ない。（市：3.2% 全国：4.7%）

□選択式問題における無回答率は、全国値と同等であった。短答式・記述式問題における無回答率は全国値より低い。特に記述式は6.4ポイント低く、自分の考えを持って粘り強く取り組んでいる。

2 具体的な改善方策

小学校：国語

- ① 「漢字を文の中で正しく使う」ことについては、国語辞典や漢字辞典を活用して意味を調べたり同音異義語を使い分けた短文作りをしたりする学習などを取り入れ、タブレット（AIドリルや漢字アプリ等）で既習の漢字を繰り返し学習し習得を図った結果、改善が見られた。今後も継続して漢字の持つ意味を考えながら使ったり、同音異義語に注意して使ったりする習慣を付ける。言語能力の育成は必須であり、読書活動の推進も図っていく。
- ② 国語科での言語活動において、自分の考えを書く活動を取り入れ、根拠をもとに説明させる等、表現させる学習を積み重ねてきた。話し合い活動を取り入れる際は、話し合う目的や意図を明確にしたうえで、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるよう、多様な表現を話し合いの中で用いることにより話し合いの質の向上を図っていく。
- ③ 「聞くこと」については、聞きながら自分が知りたい内容に関する言葉を取り上げることで話の内容を捉えることができるよう、意図をもって聞く指導が必要である。
- ④ 課題が見られる問題については、類似した問題を用いながら補充学習や家庭学習で取り組み、定着を図っていく。

【 杵 築 市 】

令和 7 年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

1 調査結果の分析

小学校：算数

	全体	学習指導要領の領域				
		数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用
杵築市	56	60.4	56.3	50.8	51.7	61.9
大分県	60	63.3	60.0	55.8	57.2	63.0
全国	58.0	62.3	56.2	54.8	57.5	62.6

◇全 16 問（選択式 6 問・短答式 6 問・記述式 4 問）であり，教科全体では全国平均を 2.0 ポイント下回った。短答式では全国正答率 64.0％に対して杵築市 64.8％と全国平均を 0.8 ポイント上回ったが，記述式で全国正答率 34.9％に対して杵築市 33.5％と全国平均を 1.4 ポイント下回った。

□「数と計算」の領域全体では全国平均を下回ったが，「異分母の分数の加法の計算」（知識・技能）は全国平均を 4.4 ポイント上回った。

□「図形」の領域は全国平均を上回った。中でも「平行四辺形の性質を基に，コンパスを用いて平行四辺形を作図する」（知識・技能）は全国平均を 6.8 ポイント上回っている。

■「測定」の領域では，「はかりの目盛りを読むことができる」（知識・技能）は全国平均を 3.8 ポイント下回っている。

■「変化と関係」の領域では，全国平均を 5.8 ポイント下回った。特に「10％増量の意味を理解し，増量後の量が増量前の量の何倍かを表す」（思考・判断・表現）は全国平均を 12 ポイント下回っている。

□正答数 3 問以下（正答率 20 パーセント未満）の割合は全国より少ない。（市：6.3％ 全国：10.1％）

□16 問中 15 問で，無解答率が全国値より低い。また，そのうち無回答率 0％が 3 問であった。

2 具体的な改善方策

小学校：算数

- ① 「数と計算」，「データの活用」については「問題場面を図や式に表す」ための指導の充実や，「グループでの話し合い活動」に継続して取り組むことで引き続き定着を図っていく。
- ② 「図形」領域では，コンパスを用いた平行四辺形作図について理解できている。半面，台形の意味や性質について，正しく捉えることができていないと考えられる。図形領域では，1 人 1 台端末や，大型提示装置を有効活用し，視覚的に図形の関係を捉えることができるように指導していく。
- ③ 「変化と関係」領域では，「10％増量」について，百分率で表された 10％を 0.1 と捉えることはできているが，「増加後の量」が「増加前の量」の 110％になることを捉えることはできていないと考えられる。又は，「増加後の量」が「増加前の量」の 1.1 倍と捉えることができていないと考えられる。割合の関係を正しく捉えさせるために，言葉や図，式を関連付けながら，数量の関係を考察できるよう指導していく。
- ④ 課題が見られる問題については，類似した問題を用いながら補充学習や家庭学習で取り組む。また，関連する領域について学習する際に既習事項の復習を行うことにより定着を図っていく。さらに，記述問題に対して粘り強く解こうとするよう指導していく。

【 杵 築 市 】

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：理科）

1 調査結果の分析

小学校：理科

	全体	学習指導要領の区分・領域			
		「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域
杵築市	63	53.0	55.2	62.6	71.1
大分県	60	51.8	52.7	55.1	69.2
全国	57.1	46.7	51.4	52.0	66.7

- ◇全17問（選択式11問・短答式3問・記述式2問）であり，教科全体では全国平均を5.9ポイント上回った。中でも記述式で全国正答率45.2%に対して杵築市56.1%と全国平均を10.9ポイント上回った。
- 「生命」を柱とする領域は，全国値を10.6ポイント上回った。中でも「ヘチマの花のつくりや，受粉についての知識」（知識・技能）では全国平均を15.1ポイント上回った。
- 「エネルギー」を柱とする領域全体では全国値を6.3ポイント上回ったが，「電池の回路のつくり方について実験の方法を発送し表現する」（思考・判断・表現）では全国値を4.0ポイント下回った。
- 「地球」を柱とする領域全体では全国値を4.4ポイント上回ったが，「赤玉土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違い」（思考・判断・表現）では全国値を2.5ポイント下回った。
- 正答数3問以下（正答率20パーセント未満）の割合は全国より少ない。（市：3.8% 全国：8.0%）
- 17問中15問で，無解答率が全国値より低い。中でも記述式2問の無回答率は全国値より8.3ポイント低く，粘り強く取り組んでいる。

2 具体的な改善方策

小学校：理科

- ① 観察で得た結果を，問題の視点で分析して，解釈し，自分の考えをもつことはできている。知識をより深く理解できるようにするために，日常生活との関わりの中で捉え直す場面を設定する学習が効果的であったと考えられる。今後も継続して取り組むことで一層の定着を図っていく。直接観察できない場合は，1人1台端末や，大型提示装置を有効活用し，画像や映像を利用する。
- ② 実験の結果の具体的な数値や，それを分析した内容などを根拠として表現する場面を設定する。問題に対するまとめを行う際に，結果を具体的な数値として大型提示装置等を用いて学級内で共有し，何を結論の根拠としているのかを明らかにし，より妥当な考えをつくりだす学習活動の推進を図る。
- ③ 児童が自ら解決したい課題を見出すことや，学習を通して得た知識を活用して理解を深め，表現する活動の充実を図る。
- ④ 課題が見られる問題については，類似した問題を用いながら補充学習や家庭学習で取り組み，定着を図っていく。

【 杵 築 市 】

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

1 調査結果の分析

中学校：国語

	全体	学習指導要領の内容			
		言葉の特徴や使い方に 関する事項	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと
杵築市	54	47.4	53.7	53.0	62.8
大分県	53	46.5	52.1	52.7	61.1
全国	54.3	48.1	53.2	52.8	62.3

◇全14問（選択式8問・短答式2問・記述式4問）であり、教科全体では全国平均を0.3ポイント下回った。短答式問題については全国正答率73.6%であるのに対して杵築市74.3%と全国平均を上回っている。また、記述式問題についても全国正答率25.3%であるのに対して杵築市26.3%といずれも全国平均を上回っている。

□「話すこと・聞くこと」領域は全国平均を0.5ポイント上回っているが、中でも「資料や機器を用いて自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫する」（思考・判断・表現）は全国平均を4.5ポイント上回っている。

■「書くこと」領域は全国平均を0.2ポイント上回っているが、「書く内容の中心が明確になるように内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考える」（思考・判断・表現）は全国平均を4.7ポイント下回っている。

■「言葉の特徴や使い方に関する事項」領域は全国平均を0.7ポイント下回っているが、中でも「文脈に即して漢字を正しく書く」（知識・技能）で全国平均を2.7ポイント下回っている。

□正答数3問以下（正答率20パーセント未満）の割合は全国より少ない。（市：5.2% 全国：7.9%）

□14問中10問で、無解答率が全国値より低い。また、そのうち無回答率0%が6問であった。

2 具体的な改善方策

中学校：国語

- ① 短答式・記述式問題については、各学校の授業改善による思考ツールの活用や、学び合いの場の設定が効果的であったと思われるため、今後も継続して取り組んでいく。
- ② 「文脈に即して漢字を正しく書く」ことについては、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことができるよう今後も継続して指導していく必要がある。
- ③ 「書くこと」領域においては、根拠を明確にするために、自分の考えが事実や事柄に基づいたものであるかを確認することが必要である。その際に、接続する語句や指示する語句を用いるなどして、伝えたい事柄とその根拠とを適切に結び付けたり、事実や事柄を具体的に示したりして書くよう指導する必要がある。
- ④ 課題が見られる問題については、類似した問題を用いながら補充学習や週末課題（家庭学習）で取り組み、定着を図っていく。

【 杵 築 市 】

令和 7 年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

1 調査結果の分析

中学校：数学

	全体	学習指導要領の領域			
		数と式	図形	関数	データの活用
杵築市	48	42.2	43.5	51.7	60.8
大分県	45	39.9	42.0	45.3	55.6
全国	48.3	43.5	46.5	48.2	58.6

- ◇全 15 問（選択式 3 問・短答式 7 問・記述式 5 問）であり，教科全体では全国平均を 0.3 ポイント下回った。選択式問題で全国値を 4.2 ポイント下回ったが，短答式では全国正答率 52.0% に対して杵築市 53.4%，記述式で全国正答率 39.3% に対して杵築市 39.8% と，ともに全国平均を上回っている。
- 「関数」領域全体では全国値を 3.5 ポイント上回っており，中でも「一次関数について変化の割合をもとに X の増加量に対する Y の増加量を求める」（知識・技能）は全国平均を 11.1 ポイント上回っている。
- 「数と式」領域は全国平均を 1.3 ポイント下回っており，中でも「素数の意味を理解している」（知識・技能）では全国平均を 10.4 ポイント下回っている。
- 「図形」領域は全国平均を 3.0 ポイント下回っており，中でも「事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができる」（思考・判断・表現）では全国平均を 4.6 ポイント下回っている。
- 正答数 3 問以下（正答率 20 パーセント未満）の割合は全国より多い。（市：24.5% 全国：23.8%）
- 15 問中 11 問で，無解答率が全国値より低い。

2 具体的な改善方策

中学校：数学

- ① 「データの活用」については，データを読み取った上で，事柄が成り立つ理由を筋道立てて考える活動（ペア・グループ活動）が効果的であったと考えられる。1 人 1 台端末や，大型提示装置を有効活用し，今後も継続し指導していく。
- ② 「数と式」については，1 より大きい自然数のうち，1 とその数自身以外には約数をもたない数の集合が素数であることを理解できるように指導する必要がある。整数の性質は必須であり，過去の振り返りを扱いながら指導していく。
- ③ 「図形」については，条件を変えた場合について証明を評価・改善することに課題がある。証明したことを基に，条件を変えた場合の証明について考察する場面を設定し，条件を変えても変わらない関係や，条件を変えると変わる関係を見出し，もとの証明を評価・改善することにより条件を変えた場合の証明ができるように指導することが大切である。
- ④ 上記の改善方策や 1 人 1 台端末の活用を取り入れた授業について，校内研究会や杵築市教育課程研究協議会の授業研究会において公開し，多くの教員が参観することによって，どの学校でも全ての生徒が考え表現する授業を実施できることを目指していく。
- ⑤ 「振り返り」の場面で，振り返りシートを活用することに引き続き取り組む。理解が不十分な生徒に対し個別に教材を用意し取り組ませることにより，学習内容の定着を図っていく。
- ⑥ 課題が見られる問題については，類似した問題を用いながら補充学習や週末課題（家庭学習）で取り組む。また，関連する領域について学習する際に既習事項の復習を行うことにより定着を図っていく。

【 杵 築 市 】

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：理科）

1 調査結果の分析

中学校：理科

	全体 IRTスコア	IRTバンド				
		正答率 10%	正答率 25%	正答率 50%	正答率 75%	正答率 90%
杵築市	501	5.2%	30.1%	38.3%	19.7%	6.7%
大分県	501	4.7%	28.5%	41.4%	19.8%	6.7%
全国	503	4.2%	27.3%	42.0%	20.3%	6.2%

◇公開問題全 18 問（選択式 11 問・短答式 1 問・記述式 6 問）であり，教科全体では全国平均 IRT スコアを 2 ポイント下回った。

□記述式問題では全国正答率 39.6%に対して杵築市 40.4%と，全国平均を上回っている。

□「生命」を柱とする領域全体では全国値を 2.7 ポイント上回った。

□「地球」を柱とする領域全体では，全国値を 4.3 ポイント上回った。しかし，共通公開問題「地層を形成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分類する」（思考・判断・表現）では，全国値を 3.6 ポイント下回っている。

■「粒子」を柱とする領域で，全国値を 4.2 ポイント下回った。中でも共通公開問題「塩素の元素記号を問うことで元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身についている」（知識・技能）では全国値を 13.3 ポイント下回った。

■正答率 25%以下の生徒の割合が全国と比較し 3.8 ポイント高い。

□公開問題 18 問中 14 問で，無解答率が全国値より低い。また，そのうち無回答率 0%が 13 問であった。

2 具体的な改善方策

中学校：理科

- ① 物質は原子や分子からできていることは理解しているが，物質を構成する原子の種類を記号で表すことに課題がある。2 文字の元素記号について 1 文字目を「大文字」，2 文字目を「小文字」で書く等，知識・技能に関する既習事項を再確認する必要がある。
- ② 正答率が 25%未満の生徒の定着を高めるため，実験や観察，話し合い活動を多く取り入れる。その際は 1 人 1 台端末や，大型提示装置を有効活用する。
- ③ 実験の計画を立案する際，課題を解決するために適切な探究の方法について，ペア・グループ学習による話し合い活動を通して確認する学習場面を設定する。課題を解決するまでの探究の過程を見通すことができるよう指導する。
- ④ 授業の振り返り場面において，授業で学んだことを記述形式で振り返ったり，実験の考察場面では，自分の言葉で科学的な見方・考え方を働かせた記述場面を多く取り入れたりすることにより，思考力，判断力，表現力の育成を図る。
- ⑤ 課題が見られる問題については，類似した問題を用いながら補充学習や週末課題（家庭学習）で取り組む。